

中国共産党第八回全国代表大会の
国民経済発展のための第二次五年計画
(一九五八年—一九六二年)についての提案

国民経済発展のための第二次五年
計画についての提案にかんする報告

周 恩 来

外 文 出 版 社
北 京

中国共産党第八回全国代表大会の
国民経済発展のための第二次五カ年計画
(一九五八年——一九六二年)についての提案

国民経済発展のための第二次五カ年計画
についての提案にかんする報告

周 恩 來

外 文 出 版 社
北 京

目次

中国共産党第八回全国代表大会の国民経済発展のための	
第二次五カ年計画（一九五八年——一九六二年）についての提案	五
国民経済発展のための第二次五カ年計画についての	
提案にかんする報告	周恩来 四二

中国共産党第八回全国代表大会の国民經濟發展のための

第二次五カ年計画（一九五八年——一九六二年）についての提案

一九五六年九月二七日
中国共産党第八回全国代表大会で採択

わが国が第一次五カ年計画を実施しているあいだに、全国の人民は、かつてみられないほど高度の社会主義的積極性をしめし、偉大な社会主義建設と社会主義的改造の運動をまさおこした。げんざい、社会主義的改造の運動はすでに決定的な勝利をおさめ、社会主義建設の運動も勝利のうちに前進している。

いまや、国際情勢ははつきりと緩和の方向にむかい、偉大なソ同盟と人民民主主義諸国の建設はいよいよすすみ、社会主義諸国の團結と協力はますますつよめられ、また、わが国の人民民主主義独裁は一段と強固になり、全国の各民族、各民主党派およびすべての愛国者はさらに團結をつよめている。こうしたことはすべて、わが国の第一次五カ年計画が成功裡に遂行されるよう一段と促進するうえにきわめて有利な條件となつてゐる。これまで三年あまりにわたる建設の成果からする見通しによれば、わが国の第一次五カ年計画で定められているそれぞれの目標の大部分がほとんど超過完遂されるものと見られ、とりわけ社会主義的改造の計画はくりあげて完成される見込みである。一九五七年に、われわれが第一次五カ年計画をやり遂げたあかつきには、わが国における社会主義的工業化の端緒的な基礎がうちたてられることになる。それと同時に、ごく少数の地区をのぞいては、農業、手工業の協同化がほとんど実現され、また、資本主義的工商業の公私共営化が達成されるであらう。

第一次五カ年計画が成功裡に実現されようとしているので、わが国の国民経済発展のための第二次五カ年計画（一九五八年——一九六二年）をすぐに作成すべきである。このため、中国共産党第八回全国代表大会は、わが国の国民経済発展のための第二次五カ年計画についての提案をおこない、これを中華人民共和国国務院に提出してその討議をもとめることにする。われわれは、国務院ができるだけみじかい期間内に国民経済発展のための第二次五カ年計画の草案をつくり、これを全国人民代表大会に提出してその審議、決定をもとめ、これによつて、全国の人民を動員して第二次五カ年計画にきめられている各種の任務を実現するため努力するよう、提案するものである。

第二次五カ年計画は、わが国の過渡期における基本任務を実現するうえでのきわめて重要な鍵である。第二次五カ年計画は、第一次五カ年計画が成功裡に完遂されたその基礎のうえにたつて、積極的な、しかも穩当確實なだんどりをもつて、わが国の社会主義建設をおしすすめ、社会主義的改造をなし遂げて、わが国がおよそ三つの五カ年計画のあいだに、完備された工業体系をほぼつくりあげ、わが国がおくれた農業国から先進的な社会主義工業国にうつりかわることができよう保証しなければならぬ。したがつて、第二次五カ年計画の基本任務は、（一）ひきつづき重工業を中心とする工業建設をおこなつて、国民経済の技術的改造をおしすすめ、わが国の

社会主義的工業化のための強固な基礎をうちたてること、(2) ひきつづき社会主義的改造をなし遂げ、集團的所有制と全人民的所有制を強化し拡大すること、(3) 基本建設を發展させ、社会主義的改造をひきつづきなし遂げてゆくことを基礎として、工業、農業および手工業の生産をいつそう發展させ、それに應じて、運輸業と商業を發展させること、(4) 社会主義經濟と文化の發展に照應するために、建設要員の養成につとめ、科学研究活動をつよめること、(5) 工業生産の發展を基礎として、国防力を強化し、人民の物質的・文化的生活の水準をひきあげることでなければならぬ。

以上のべた基本任務の実現を保証するために、第二次五カ年計画では、國民經濟の發展と改造について、つぎのような方針と措置をとることを提案する。

(一) げんざいの国内および國際上の諸條件と全般的な趨勢からみて、わが國の國民經濟は、第二次五カ年計画の期間に、ひきつづきわりに高い發展速度を維持することが必要であり、しかも、それが可能である。わが國の第一次五カ年計画の規定では、一九五七年の工業生産総額(近代工業、手工業および農業をふくむ、以下おなじ)は一九五二年より五一・一パーセントふえることになっているが、これを遂行したじつさいの結果は、六〇パーセント以上増加できる見込みである。第二次五カ年計画のあいだには、新設または改築をおこなつた企業がつぎつぎに操

業をはじめ、もともとある企業の生産上の潜在能力がいつそう発揮され、私営工業が公私共営化または国有化されていごその設備の潜在能力が発揮され、農業と手工業が協同化されたのちその生産力が一段と向上するので、一九六二年の工農業生産総額を、一九五七年の計画（第一次五カ年計画中の一九五七年の計画、以下おなじ）より七五パーセント前後ふやすことを要求する。そのうち、工業生産額（近代工業と手工業をふくむ、以下おなじ）は、一九五七年の計画の倍前後に、農業生産額は一九五七年の計画より三五パーセント前後それぞれふやすことを要求する。上にのべた工農業生産の発展速度は、いずれも第一次五カ年計画の数字を一〇〇として比較したものであつて、超過完遂の見込みのある要素を計算にいれていないため、増加の速度が少しはよいようにみえる。もしも第一次五カ年計画を遂行した結果の見つより数字を一〇〇として比較するならば、上にのべた第二次五カ年計画における増加速度は相対的にいくらか低くなるであらう。

わが国の第一次五カ年計画は、一九五七年における工業生産額の計画中で、生産手段を生産する工業が三八パーセント、消費資料を生産する工業が六二パーセントをしめるように定めているが、じつさいに遂行された結果は、生産手段を生産する工業の比重が四〇パーセント以上にたつする見込みである。第二次五カ年計画のあいだに、生産手段を生産する工業の増大ぶりは、やはり、消費資料を生産する工業よりもはやいテンポをしめすはずであつて、一九六二年には、生産

手段を生産する工業と消費資料を生産する工業が、それぞれ五〇パーセント前後をしめることを要求する。

(二) 工農業生産の増大、労働生産性の向上、および国民経済の各部門での節約の励行によつて、一九六二年の国民所得は一九五七年にくらべて五〇パーセント前後ふえる可能性がある。第二次五カ年計画のあいだに、国民所得における消費と蓄積との比率をただしく処理し、国民所得のうち蓄積のしめる比重をさいしよの五年間にすでにたつした水準よりもいくらかふやして、社会主義の建設をはやめるとともに、人民の生活をしだいに改善するよう保証すべきである。

第二次五カ年計画のあいだに、国民所得の増加と国民所得のなかにしめる国营経済の比重の増大にともない、国家の財政収入は、さいしよの五年間にくらべてかなり大幅にふえる。財政上の支出は、財政上の収入に適應させて財政收支の均衡をたもたせるとともに、でくわすかもしれない予想外の困難に対処するため一定の予備力を保持するようにしなければならない。それと同時に、信用貸付基金をそれにおうじてふやし、信用貸付の收支の均衡をたもたせるべきである。

第二次五カ年計画のあいだに、国防力をつよめ行政上の能率を高めることを前提條件として、国防費と行政費の支出をできるだけきりつめ、経済建設と文化建設のための支出をふやして、社会主義の建設がいつそうはやくすすむよう保証すべきである。第二次五カ年計画中における財政

支出総額のうち、経済と文化建設面への支出を、第一次五カ年計画のさいの五六パーセント前後から六〇パーセントないし七〇パーセントにふやし、国防費と行政費の支出を第一次五カ年計画のさいの三二パーセント前後から二〇パーセント前後までひき下げ、そののこりは、国家による物資の備蓄、信用貸付資金、内外債の返済、および総予備費などにあてるべきである。

第二次五カ年計画のあいだに、社会主義建設のテンポをはやめるため、財政収入の増加を基礎として、財政支出総額のうち国家の基本建設投資がしめる比重をさいしよの五年間の三五パーセント前後から四〇パーセント前後にひきあげてもよい。こうすれば、つぎの五年間における国家の基本建設投資は、さいしよの五年間にくらべて一〇〇パーセント前後ふえる。国家の基本建設投資総額のうち、工業への投資の比重は、第一次五カ年計画のさいの五八・二パーセントから六〇パーセント前後にひきあげ、農業、林業、水利への投資の比重は、第一次五カ年計画のさいの七・六パーセントから一〇パーセント前後にひきあげて、国民経済中のふたつのおもな部門である工業と農業の急速な発展を保証すべきである。

(三) わが国の第二次五カ年計画の中心任務は、やはり重工業を優先的に発展させることであり、これは社会主義的工業化のおもなめじるしである。なぜならば、重工業はわが国の強大な経済力と国防力をうちたてる基礎であり、そしてまた、わが国の国民経済の技術的改造をなしとげ

る基礎にもなるからである。

一九六二年には、重工業のおもな生産品がほぼつぎの水準に到達することを要求する。

生産品名	單位	一九六二年 の計画生産量	一九五七年 の計画生産量	一九五二年 の實際生産量	解放前の 最高年 生産量
発電量	億キロワット時	四〇〇—四三〇	一九・〇	七三・六	一九四一 五九・六
原炭	万吨	一九、〇〇〇—二一、〇〇〇	一一、二九八・五	六、三三二・八	一九四二 六、一八七・五
原油	万吨	五〇〇—六〇〇	二〇二・二	四三・六	一九四三 三三・〇
鋼	万吨	一、〇〇〇—一二、〇〇〇	四二二・〇	一三五・〇	一九四三 九二・三
アルミニウム塊	万吨	二〇—二二	二・〇	—	—
化学肥料	万吨	三〇〇—三二〇	五七八	一九・四	一九四二 三三・七
冶金設備	万吨	三—四	〇・八	—	—
発電設備	万キロワット	一四〇—一五〇	一六・四	〇・六七	—
金属切削機械	万台	六—六・五	一・三	一・四	一九四二 〇・五
原木	万立方メートル	三、二〇〇—三、四〇〇	二、〇〇〇・〇	一、〇〇二・〇	—
セメント	万吨	一一、二五〇—一、四五〇	六〇〇・〇	二八六・〇	一九四二 三二九・三

第二次五カ年計画のあいだに、国家建設の需要にこたえるため、機械製造工業、とりわけ工業用設備を生産する機械製造工業の建設を大いに強化し、冶金工業の建設をひきつづき拡大してゆかなければならない。それとやらんで、電力工業、炭鉱業と建築材料工業の建設を積極的に発展させ、工業のなかで立ちおくられている部門、つまり石油工業、化学工業、無電工業などの建設を強化すべきである。原子力を平和的に利用する工業の建設は、積極的にすすめてゆくべきである。

五年のうちに、工業部門のよい環境を強化し、あたらしい分野をきりひらくため努力をはらうべきである。たとえば、各種の重型設備、専用工作機械、精密工作機械、理化学器械・計器類などの製造、高級な合金鋼の生産と鋼材の冷却加工、稀金属の採掘と精錬、有機合成化学工業の創設などがこれである。それと同時に、資源の総合的利用、とりわけ数種の金属をふくむ有色金属鉱の全面的な利用についても注意をはらうべきである。

(四) 重工業を優先的に発展させると同時に、農業の発展を土台として、軽工業の建設速度を適當にはやめて、消費物資にたいする廣はんな人民の日ましに増大する需要にこたえ、また、国家の資金の蓄積をふやすべきである。

一九六二年における軽工業のおもな生産品は、ほぼつぎの水準にたつすることを要求する。

第二次五カ年計画のあいだに、社会が必要とし、原料も充分に供給をうけられる軽工業は、すべて、原有設備の生産上の潜在能力を充分に発揮させるとともに、軽工業への投資の比重を適当にひきあげ、必要で可能な程度におうじてあらたに建設をおこなつて、軽工業の生産をいつそう拡大すべきである。軽工業部門は生産品の種類をふやし、質をよくし、原価をひきさげ、安くて良いものをつくるように努力すべきである。

生 産 品 名	單 位	一九六二年 の計画生産量	一九五七年 の計画生産量	一九五二年 の實際生産量	解放前の 最高年産量
綿 糸	万 梱	八〇〇—九〇〇	五〇〇・〇	三六・一八	一九三 二四四・七
綿 布	万 疋	三三、五〇〇—二六、〇〇〇	一六、三七一・一	一一、一六三・四	—
塩	万 トン	一、〇〇〇—一、一〇〇	七五五・四	四九四・五	一九四三 三九一・八
食用植物油	万 トン	三二〇—三三〇	一七九・四	九八・三	—
砂糖（地場糖を ふくむ）	万 トン	二四〇—二五〇	一一〇・〇	四五・一	一九三六 四一・四
機械製紙	万 トン	一五〇—一六〇	六五・五	三七・二	一九四三 一六・五

輕工業品をふやすためには、地方工業がその土地の資源や不用となつた材料をもつとよく活用して、地もとの人民の必要とするさまざまな消費物資を増産するとともに、各地区でたがいにも無あい通じるようにすべきである。協同化を基礎として手工業をひきつづき發展させ、人民の多方面にわたる需要をみたすべきである。

(五) 第二次五カ年計画のあいだに、資源の状況と生産力の合理的な配置の原則にもとづき、ひきつづき奥地であつたらしい工業基地の建設をおこない、または積極的にその準備をすすめて、しだいに全国各地の経済が均衡をもちつつ發展するようにしなければならない。しかし、奥地で大規模な工業建設をすすめると同時に、また、沿海地方各地の原有工業も積極的に充分に活用し、適宜これを發展させてゆかねばならない。これは、国家と人民の日ましにふえる需要をみたすためばかりでなく、また、奥地の建設を援助するためでもある。工業の基本建設にあつては、大、中、小の規模の企業の組み合わせに注意をはらうとともに、地域的にも適宜これを分散すべきである。

五年のあいだに、東北、華中、および内蒙古の各地方で、鉄鋼業を中心とする工業基地の建設をひきつづきおこなうこと、西南、西北の兩地方、および三門峽周辺の地区で、鉄鋼業、水力発電所を中心とするあたらしい工業基地の建設にとりかかること、ひきつづき新疆地区で石油工業